



「辻よし子と歩む会」

☎ 190-0154

あきる野市高尾 182-1 佐橋方

電話 & FAX : 042-596-4569

e-mail : kusasigi@nifty.com

共同代表 : 柏倉倫子・岩田純子

HP「辻よし子と歩む会」で検索
F B、ツイッターも始めました！

号外

新年度予算、るのバスを巡って紛糾

(○は賛成、×は反対)	くさしぎ (辻)	自民党 志清会 (8人*)	公明党 (3人)	未来 (4人)	共産党 (3人)	結果
修正案(るのバス購入費を削除する案)	×	○	○	×	×	可決
当初予算(修正部分を除く原案)	×	○	○	○	○	可決
修正案の再議(否決された案を再審議)		○	○	×		可決

*議長を除く人数。但し、再議では議長も採決に参加する。

●自公が「るのバス」購入費を削除する修正案を提出

村木市長になって初めての当初予算案に対して、自民党志清会と公明党が、るのバス購入費を削除する修正案を出しました。

提案理由は、「循環バスについての実証実験の内容等について議論が尽くされておらず、バスの購入ありきの緊急性もなく、誤った判断である」というもの。

修正案が賛成多数で可決されたため、その後、るのバス購入費を除いた予算案が採決され、賛成多数で可決されました。

●市長が「再議」を求め、再び審議

この結果に対して、村木市長が修正案の「再議」を求めました。「再議」は市長の権限の一つ。文字通り議会に再び審議し直すように求めるもので、今度は3分の2以上の賛成がないと可決されません。自公の議席数では3分の2に達しないため、修正案が否決される可能性が出て来ました。

●暫定予算になれば、市民生活を打撃

修正案が否決されれば、るのバス購入費が復活するため、今度は予算案そのものに自公が反対し、否決される可能性が出てきます。そうなると、市長は暫定予算を組むことになり、るのバスだけではなく、他の様々な事業が執行できなくなります。

暫定予算になるリスクを冒してまで、るのバス購入費を押し通す必要があるのか、市長の再議には大へん疑問を持ちました。

●暫定予算を避けるため退席

再議の採決の際、もし、退席者が2名以上になれば、暫定予算を回避することができます(分母が減り、自公だけで3分2を超えるため)。いろいろ迷いましたが、再議への抗議の思いも込めて退席しました。結果的に、共産党3名の議員も退席したため、修正案は再び可決され、るのバスを除く予算が確定し、暫定予算は免れました。





修正案、および、予算案に、なぜ反対したか



●るのバス購入で実証実験の加速化

提案理由には一理あると思いましたが、基幹交通と位置付けられている「るのバス」を増やすことで、交通空白地域や交通不便地域の実証実験を加速できるのではないかと考えました(細部を走るワゴン車と「るのバス」を接続させる実証実験)。また、もう一台増やせば、市民要望の強い「るのバス」の休日運転やショートカット運転(乗降客の多いルートだけに短縮する)の実証実験も、可能になります。

●検討委員会の審議を尊重

一方、市長が、公共交通検討委員会での議論を経ずに購入を決めたことには、問題があります。

この点について予算委員会で市長に反省を求めたところ、市長も問題があったことを認めました。

さらに、検討委員会の審議で結論が出るまで予算執行しないこと、今年度中に結論が出なければ、補正予算で減額することの2つを提案しました。

これに対して、市長は両方とも受け入れる旨の明確な答弁をしたため、るのバス購入費を削除する必要はないと判断しました。

この市長の答弁を受け、自公に修正案の取り下げを求めましたが、市長の発言を担保できない等の理由で譲ることはありませんでした。

●市長の意気込みは感じられるが・・・

市庁車の廃止、認証保育園の保護者への補助金増額など、村木市長の意気込みが感じられる予算案でしたが、主に次の4つの理由で反対しました。

①幼稚園類似施設への補助が不十分

幼稚園類似施設は国の無償化制度の対象外にされてます。村木市長は当施設への支援を施政

方針に掲げましたが、中身は、わずか3千円補助金を引き上げるだけ。国の制度の欠陥を補うためには、もっと思い切った支援が必要です。

②マイナンバーカード事業に問題あり

今年度からマイナンバーによる証明書のコンビニ二交付事業に対する交付税措置がなくなり、市の全額負担になります。1枚の証明書を交付するのに2452円も経費が掛かることになり、行政サービスのあり方として問題です。

③区画整理事業の見直しの先行きが不透明

引田駅北口土地区画整理事業の見直しは、先行きが不透明であり、現段階で、一般会計予算からの繰り出しには賛成できません。

④下水道事業は、方向転換すべき

今年度の下水道事業への繰り出し金は15億円余り。市の借金の3分の1以上は、下水道事業に因るものです。人口密度の低い地域では、下水道ではなく、同じ機能を持ち個別に設置できる合併処理浄化槽に転換すべきです。莫大な経費を掛けている割に、接続率が低いことも問題です。前例主義に捉われていては、将来に大きなツケを残すことになります。(辻よし子)

予算以外の審議については、市議会レポート最新号で報告します。



辻よし子プロフィール：1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぶ会」を中心に、市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、新たに脱原発の市民活動を始める。2015年10月の補欠選挙で初当選。現在2期目。常任委員会は、環境建設委員会に所属。夫、次男、ネコ1匹と草花に暮らす。